

税を知ることとは社会を知ること

長岡市立東北中学校

三年 平原 芳徳

「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、一本のペンがあれば世界を変えられます。教育はたった一つの解決策です。」マララ・ユスフザイさんのこの発言にとても衝撃を受けました。世界中には学校に行きたくても行けない子ども達がたくさんいます。多くの知人のおばあちゃんも昔小学校までしか行けなかった一人です。兄弟が大勢いて貧乏で小学校を卒業するとすぐに働きに出されたと聞きました。勉強したくても訳があつてできないなんてどんなに残念で悔しい思いをしただろうなあ。複雑な気持ちだろうと思います。それに比べて教育制度に恵まれて無条件で手にしている教育環境のよい今の日本。マララさん達には申し訳ないほどです。毎年春配布される新しい教科書も無償で税でまかなわれています。学校も基本的にはお金はいらぬし机やいすも貸してもらえます。税がぼくたちの教育を支えてくれていることに感謝しなければなりません。ときどき難しい問題があると投げ出したくなるぼくのがまま。反省しなければなりません。

もし今の日本に税がなくなつたらどうなるのだろうか。社会でぼくは税と聞いても今のところは関心がありません。

習った八世紀に日本で初めて税の制度ができて中国の制度を手本として作られたことしか知りません。これから税についてもっと知らなければなりません。税について知ることはいく達にとって大切なことだと思えます。予防接種や学校の運営、治安の維持、日本中の道路と公園の整備など国民が健康で安心に快適に暮らしていけるように税によって支えられている日本です。税がなければ成り立たない日本ともいえます。

お金のある人もない人も病気の人も安心して暮らせる社会保障制度があります。少しずつ税について知ることはいく達が暮らす社会を知ることなんだと思えます。お父さんは冗談まじりに教えてくれます。おいしいビールを飲むこと、温泉に入ること、郵便局からもらう給料も税がかかっていて我が家も社会に貢献しているんだよと。まだ身近に税に関することがいっぱいあるよと教えてくれました。将来は少子高齢化社会が進んで大変なことになりそうです。働く人が減るからどうなるのかな。消費税がもうすぐ十パーセントになると素直に賛成できない人もいるけどよく考えるとみんなが平等に払う税金だからぼくは理解できるような気がします。東日本大震災や熊本地震、いろんな自然災害で困っている人達のための復興費として税を使ってほしいです。税を有効に使ってほしいです。

税を学んで知ること、それはぼくたちが暮らす社会を知ること。税から受けた恩に感謝して立派な社会人になって一生懸命に働いて社会貢献できる人になりたいです。